



私の
**なんとか
しなきゃ!**

Vol. 69

PROFILE

東京都出身。桐朋学園大学音楽学部声楽科卒業、同研究科修了。1988年モーツァルト作曲歌劇「魔笛」童子Iでオペラデビュー。二期会オペラ講座「ルル」をはじめ、古典から現代までオペラ作品のみならず、コンサートに多数出演。2008年より世界各国の国歌を通じた国際友好親善活動を始め、12年にはパレスチナとイスラエルを訪問した。二期会・東京室内歌劇場会員。

全国各地で公演活動を行う中で、これまで印象に残る出会いがたくさんありました。最近では、世界各国の国歌を通じて、国境を超えたつながりも生まれています。

きっかけは、私の恩師が企画していたインターネットテレビの番組です。内容は、さまざまな国の駐日大使をゲストとして招き、各国の生の情報を語ってもらうというもの。その番組の冒頭で、相手国の国歌と、日本の君が代を歌ってほしいと頼まれたのです。こうして「国歌外交官」と名付けられた私は、2008年にこの活動を始めましたが、最初は苦勞の連続でした。

驚いたのが、これまで学んできた五線紙の楽譜が存在するのは、西洋音楽の世界だけだと知ったこと。アフリカや中東の国歌の多くは楽譜の存在が定かではなく、恐らく口伝などで歌い継がれてきたのでしょう。テープを聞きながら練習したり、大使館の職員に確認してもらったりすることもあり。苦戦しましたが、完璧に仕上げた歌ったと

きには、本当に喜んでもらえます。番組をきっかけに、海外の政府関係者の来日レセプションや、大使館主催のイベントに呼んでもらう機会も増えました。イスラエルの方々を前に国歌を歌った際、全員が涙を流して「こんなに美しく歌ってくれてありがとう」と感謝されたことは、今でも忘れられません。

君が代は穏やかで平和な歌ですが、世界には激しい国歌も存在します。領土争いを背景に持つ歌や、血を意味する「赤」という言葉が歌詞に出てくる歌など、国歌を通してその国の歴史が見てきます。また、スリランカの新年祭に出席した際には、牛乳を沸騰させて一年の幸せを願うという正月の慣習を知りました。この活動をしていなければ、こうした各国の伝統や文化に触れる機会もなかったと思います。

私が出演するコンサートで、世界の民謡を紹介することもあります。おとし、親しくしているアルバニアの大使夫妻から教わった民謡を歌ったのですが、会場に来ていたシリアの大使が、

国歌が紡ぐ世界との絆

ソプラノ歌手 **新藤昌子**
SHINDO Masako

「次はシリアの曲を歌ってほしいな」とうらやましそうな顔をしていました。皆さん温かくて気さくな方ばかりなんです。外国の歌を披露する一方、日本の素晴らしい唱歌を海外に紹介できる若者を増やしたいと思い、地元の学校で開かれる出前講座の講師も務め、子どもたちと一緒に日本の歌を歌っています。

国を象徴する国歌を歌うことには、並大抵ではないプレッシャーが伴いますが、私は、国対国という大きな関係で捉えるのではなく、人対人の小さな積み重ねを大切にしたいと思っています。その一曲に歓喜すること、涙すること、心癒されること——。音楽が持つ世界共通の力を、多くの人に感じてもらうことが私の願いです。

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「なんとかしなきゃ」で 検索